

## カササギの生息実態調査 (II)

—佐賀平野における営巣分布と植生の関係—

佐賀県林業試験場 松本光男

### はじめに

カササギの生態構造と環境条件を明らかにするための調査が、昭和50年度に初めて全県的に始められたが本年度も前年に引きつづいて、経年的な生息実態の調査が行なわれた。

前報では全県的な営巣分布の形態について報告したが、今回は県内において営巣の過半数をしめている佐賀平野を対象として、とくに営巣分布と植生の関係について2年目の調査結果をふまえて報告する。

### 1. 調査方法

この調査は昭和50～51年度共にカササギの繁殖最盛期である、3月下旬から5月上旬に限り、野外調査を主体として実施したもので、現地調査に当っては、営巣場所を地形図(5万分の1)にプロットしたほか、営巣形態(樹種、巣高、形状)等について記録した。

なお対象地域を一定の区画毎に区分(12km<sup>2</sup>/1メッシュ)して営巣分布と関係要因を検討した。

### 2. 結果と考察

#### 1) 営巣分布の推移

佐賀平野における営巣分布を地域別に区分すると、(表-1)全体的な営巣量は前年と殆んど変わらないが佐賀市を中心とする中部地域では、依然として高密度の分布がつづいており、次に西部、東部地域の順に低

くなっている。なお地域間の営巣密度には多少の増減がみとめられるが、今後の調査経過をみて検討したい。

また営巣密度をメッシュ毎にプロットして図化すると(図-1)佐賀市北部の山麓よりと、同市の西南部に高密度分布の二眼がみられ、さらにこの眼を中心とした等高線は、西部の山麓地帯に向って褶曲状を呈し東南部の平坦地域から有明海沿岸にかけては一定の分布幅をもって緩やかな低下をみせている。

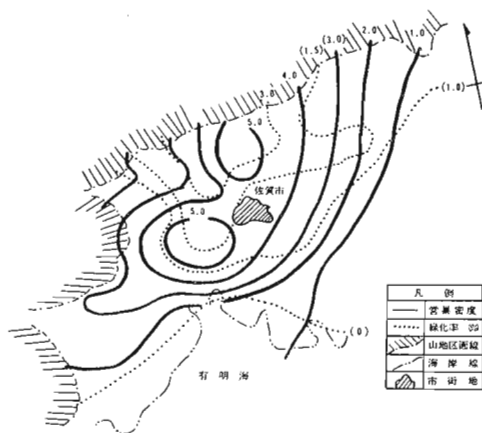


図-1 カササギの営巣密度と緑地率の分布  
—佐賀平野—

表-1 佐賀平野に於ける営巣分布の推移

単位: 個数

地域区分	該当市郡名	営巣量		構成比%		営巣密度	
		50	51	50	51	50	51
東部	鳥栖市						
	三養基郡	355	394	23.4	26.0	1.68	1.87
	神埼郡						
中部	佐賀市	788	760	51.3	50.0	3.22	3.15
	佐賀郡						
西部	小城郡	383	364	25.3	24.0	2.71	2.58
	杵島郡の一部						
計		1,516	1,518	100	100		

なおこの営巣分布図に樹木群の緑地率分布をトレースすると、緑地率1.5%以上の分布域内に営巣の高密度集団が存在または交差しており、両者間の関連性の強さが認められる。また平野中央部から有明海沿岸に向かう、いわゆる樹木群の低減する地域では電柱その他への営巣が年々増加しているものと考えられる。

#### 2) 樹高と営巣

営巣した樹木の巣高階層は表-2のとおりで、7～11m未満(70.6%)が最も多く、つづいて11～16m未満(15.3%)となっており、両年度の構成比をみても7～16m未満の階層が大部分(80%)をしめ、営巣全体を通じて、樹高の高い樹木ほど効率的に利用されている傾向がうかがえる。

表-2 樹高と営巣

単位：個数

区分	年次	樹高					合計
		7m以下	7m未満	11m未満	16m未満	21m以上	
巢量	50	162	907	336	74	37	1,516
	51	134	1,071	233	75	5	1,518
構成比%	50	10.7	59.8	22.2	4.9	2.4	100
	51	8.8	70.6	15.3	5.0	0.3	100

なお佐賀平野に現存する樹木群のうち出現頻度の高い樹種である、クス、エノキの高令木の樹高は、20~30mに達しているものが多く、他にこれ以上の樹高をしめす樹木も現在では認められない。従って一般的な営巣の位置としては、これら高木類の樹幹中央部を中心として、枝幹の比較的安定し易い部分を選んで巣造りを行っているものが多く見受けられる。

3) 営巣植生と出現度合

営巣の対象としては、表-3のとおりであり、51年調査で樹木から電柱その他への移行が多少みられるものの、大部分が樹木(71.5%)によって占められており、樹種としては広葉樹(全樹木の88%)が最も多くしかも、過半数が落葉樹であった。

表-3 樹種と営巣の変化

単位：個数

区分	年次	樹木						電柱その他	合計	
		広葉樹			針葉樹					
		常緑	落葉	小計	常緑	落葉	小計			
巢量	50	226	890	1071	47	94	141	1257	259	1516
	51	375	582	957	79	49	128	1085	433	1518
構成比%	50	14.9	58.7	73.6	3.1	6.2	9.3	83.0	17.0	100
	51	24.7	38.3	63.0	5.2	3.2	8.4	71.5	28.5	100

つぎに営巣が確認された樹木53種のうち出現頻度の高いものは、表-4のとおりで、落葉広葉樹では、カキ(34.9%)エノキ(6.9%)ムクノキ(5.7%)、常緑広葉樹ではクス(19.5%)等が最も高率で利用されているが、これらの樹木は佐賀平野において分布頻度あるいは密度の高い樹種が大部分であった。

ところで、佐賀平野に現存する樹木群の多くは、市街地を除いては集落地域の内部やその周辺に分布して

るため、必然的に多くの巣が集落地域に集中して造られているが、営巣期から成鳥期にいたる各々の発展段

表-4 主要な営巣樹種と頻度

(頻度1%以上のもの)

針広別	常落別	樹種	営巣度合		樹木分布 ランク
			巢量	頻度	
広葉樹	常緑	クス	369	19.5	A
		アラカシ	64	3.4	B
		タブノキ	23	1.2	C
		クロガネモチ	21	1.1	B
	落葉	カキ	661	34.9	A
		エノキ	130	6.9	A
		ムクノキ	108	5.7	B
		センダン	57	3.0	B
	ハゼ	42	2.2	B	
針葉樹	常緑	スギ	42	2.2	B
		クロマツ	33	1.7	B
		イヌマキ	28	1.4	A
		ヒノキ	21	1.1	B
	落葉	イチヨウ	102	5.4	B

注) 樹木ランク(頻度) A: 81~100% B: 61~80% C: 41~60%

階にともない、樹木群の分布構造とも関連して、集落周辺の農耕地域に散生している高木類への営巣増加をきたして行くものと思われる。

また佐賀平野に生立している樹木群のうち営巣のために利用されているものは、約5%程度と推定されるが、カササギの生態と植生の関連から、好適な環境は林縁部に近い林相と云れていること、さらに樹種、樹高、配置等、林分構成の諸条件がこの鳥の生活要件をみたすことなどを考慮して、現存植生の利用、改善ならびに現存植生の保護、更新等、カササギの生息環境の保全について検討する必要がある。

参考文献

- (1) 小部晃・田中美実：日林九支研論, 27, 37~38, 1974
- (2) 原信義：平坦地緑化に関する調査 佐賀県林試業務報告, 1975, 1976
- (3) 松本光男：日林九支研論, 29, 241~242, 1976